

世界に勝つものづくりのコツ

第9回

中小企業の海外展開を強力にバックアップする「広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP）」。
ここでは、MTEPの専門相談員がよくある質問やサポート内容、海外展開のコツをご紹介します。

思考技術を磨き、長期的な視点で
海外規格に取り組みましょう

ふじのきしゅうじ
藤ノ木 修二 専門相談員

木曜日担当
専門：EMC、電気安全、低電圧指令



プロフィール

(株)ニコンにおいて製品開発、安全規格、管理職務など「ものづくり」の最前線現場を歩む。特に安全規格の分野で欧州や米国などの海外安全規格業務を数多く手がける。その後、民間試験機関の安全規格コンサルタントに転身、数多くのメーカーの安全規格業務、安全教育に関わる。

現在、(株)フジセーフティ・サポート(代表取締役)で安全規格コンサルタントとしてCEマーキング等の安全規格・技術コンサルティングを行っている。

▶ 製品づくりで重要な企画・設計

ものづくりにおいては、製品の企画や設計が一番重要な工程です。どんなに素晴らしい製品をつくったとしても、最初の設計で見落としがあれば、その製品をつくり直さなければなりません。また、海外展開も見越しているのであれば、初めから海外の安全規格への対応も考えて設計をする必要があります。

中小企業においては、最初から海外展開を考えるケースは多くありません。MTEPでの相談実績をみても、海外のお客さまからの問い合わせをきっかけに、海外規格について考えるケースが全体の9割を占めます。

▶ 海外規格の対応には思考技術が大切

海外規格へ対応するために製品を変更する場合、部分的な変更で済ませてしまう企業があります。その理由を聞いてみると、「同業他社も同じようにやっているから」といった答えが返ってきます。ものづくりの姿勢としてこれはいかがなものかと思えます。

今の時代に求められているのは、自ら考えて対応していく力です。それを私は「思考技術」と呼んでいます。特に、第三者の認証を必要としない自己宣言で対応する場合は、この

思考技術を磨くことが大切です。海外規格は、決められた手順があるのではなく、自らが主体的に改善をしていくものです。そのようなことを言われると、何をしたいのか困ってしまう人が多いのですが、その規格が何を求めている、自分たちはどのように対応していったらいいのかをしっかりと考えなければなりません。

▶ 信頼できるガイドとの出会いが海外規格の第一歩

山に登るのにも、慣れないうちはガイドについてもらう必要があります。そうしないと、どこから登っていいかわかりませんし、遭難してしまうかもしれません。それは海外規格の場合も同じです。専門の担当者を置くことができない中小企業は特に、信頼できるガイドと出会うことも大切です。MTEPは、その意味でも有効だと思います。

海外規格に対応することは手間もコストもかかります。しかし、そのような各国の法規制、規格要求も顧客ニーズとして対応すべきでしょう。10年、20年という長いスパンで安全技術を社内に保有するという長期的な視点から物事を見ていくことも必要です。

▶ 事例紹介

ある美顔器メーカーでは、今まで国内の法規制に従って製品を開発・販売していましたが、海外輸出をするために技術基準を見直したところ、かなりの設計変更が必要であることがわかりました。この経験から、担当者は「国内の法規制や規格が国際規格と違っていることで、日本の産業は保護されていたことに初めて気がつきました」と話し、国際規格に対応した製品をつくることの必要性を感じていました。

【中小企業の皆さまへ】

中小企業は、それぞれ固有の技術を持ち、日本のものづくりを支えている存在です。一昔前は、大企業の仕事の請け負うことで会社が存続できましたが、現在は難しくなっています。しかし、それは中小企業が世界を相手に自立したビジネスを展開するチャンスでもあります。海外進出ができれば、市場規模が一気に大きくなります。そして、MTEPのようにそれを支援する窓口もあります。私たちMTEPをうまく活用して、ぜひチャンスをもものにしてください。



お問い合わせ 輸出製品技術支援センター<本部> TEL 03-5530-2126